

令和2年度 大阪商業大学高等学校 学校評価

1. めざす学校像

□目指す学校・基本領域

[1] 建学の理念に基づく学校づくり

- (1) 建学の理念「世に役立つ人物の養成」の本校における今日的意義を探り、アイデンティティを確立し、普遍的価値を持つ学校目標を定める。
- (2) 学校目標に沿い、教育方針を策定し、生徒、保護者、地域へ周知し、浸透を図る。

[2] コースの充実

- (1) コースのコンセプト及びコース目標を基に、各コース委員会を中心に、次期学習指導要領改訂を見据えて教育活動を具体化し推進する。これをアドミッションポリシーとして広報していく。
- (2) グローバル商大コースでは、策定したリメディアル教育を含む低学力者への対応、また、進路意識が高い生徒への進学対策などを実施し、多様な進路を保証できるように取り組む。
- (3) 文理進学コースでは、新3年生が平成30年度より改訂したカリキュラムで学ぶ一期生であり、放課後授業、学期末授業、二次試験対策の補習などを通して、学力向上・進路目標達成を図る。また、大学入学共通テストを含む高大接続改革の初年度として、柔軟で丁寧な対応をおこなう。また、本校が民間英語テストとして選択した新英検に向け、取り組みを実施する。
- (4) デザイン美術コースは、充実した芸術実習室Ⅰを効果的に利用する。また、国公立大学合格を視野に入れたグローバル商大コースと協働した進路対策を実施する。また、デッサン授業の見直しを行い、専願受験希望者増に繋がる施策とする。
- (5) スポーツ専修コースは、引き続き3クラス体制とする。社会的に問題となっているクラブの活動時間の問題や指導者の勤務等への対応を一部、先行的に実施する。また、カリキュラム改訂を見据えて、総合的な学習、スポーツ演習を総合的に見直す。女子生徒数の増加策として、剣道部への女子勧誘を行う。

2. 中間的目標

□学習指導構想

[1] 生徒の学習状況の把握と対応

- (1) 各教科で定期考査後のデータ分析により学習状況を把握し、次の授業に反映する。一年間の授業を総括し、シラバスを見直し有効活用する。
- (2) 昨年度策定した学力不振者への、入学後のリメディアル教育、定期考査前、考査後、長期休暇中の補習などによる学力補充の方策を実施する。

[2] 教科教育活動の充実

- (1) 授業内容を精選し、一時間一時間の授業を大切にす姿勢を教員・生徒ともに養う。ここ数年減少してきた自習時間は、教員の有給取得の義務付けにより増加傾向となっているため、対応策を考えていく。
- (2) グローバル商大コースを中心に実用英語検定、簿記検定、ICTプロフィシエンシー検定（P検）など資格取得を前提とした指導体制を維持し、合格率向上を目指す。また、検定前補習を担当者任せではなく、学校全体の取り組みとするようシステム化する。大学入学共通テストに伴う新英検への対応を始める。
- (3) 学習指導要領改訂に伴う先行実施分について、既に家庭科等で対応しているが、実施状況を確認する。

□生活指導構想

[1] 基本的生活習慣の確立、規範意識の育成

- (1) 理想とする「生徒像」を、行事、集会など機会がある毎に、生徒に伝え指導し続ける。つまり問題事象の発生を未然に防ぐ「予防的な指導」を目指す。
- (2) 教職員全員で、生活指導を行うという意識を徹底する。
- (3) 校則遵守を徹底し、頭髪、服装などの違反ゼロを目指す。生活指導週間を有効に活用する。
- (4) 改訂した目標値を掲げて取り組んでいる遅刻指導を継続的に実施するとともに、登下校指導を計画的に実施する。
- (5) 美化意識を高め、大掃除などを通じて校内美化に努める。
- (6) 交通安全指導や性教育、薬物乱用など危機管理につながる講座や携帯電話使用やスマホ依存教育など社会人としてのマナーを養う講座を行う。

[2] 帰属意識の高揚

- (1) 生徒自治会を中心に、体育祭、文化祭、校内大会などの行事を、生徒の企画・運営で実施し、活性化する。
- (2) 学年や自治会活動を中心にHR活動の充実を図る。
- (3) クラブ活動の充実を図るため、生徒自治会を中心にクラブ入部率を高める活動を行うとともに、校外での練習場所の確保、施設設備の改善、これに必要な予算措置など支援する方策を実施する。
- (4) 北海道修学旅行を、総括を基に、必要があればプログラムの内容を考慮し、より充実したものとする。

[3] 特別支援教育の充実、不登校生対策の強化・改善

- (1) 特別支援教育理解のために啓発活動を行うとともに、特別教育支援コーディネーターを任命し、対象者の支援計画を立案できるような体制作りを行う。大阪私立中学校高等学校連合会主催のコーディネーター養成講座へは、引き続き教員を派遣する。
- (2) 不登校生徒に関する教務内規を見直した効果を検証する。また、新しいサポートルーム運営体制の検証を行う。
- (3) 教職員が、発達障害を抱える生徒に対して理解を深め、指導できる体制を構築する。

□進路指導構想

[1] 進路意識の高揚と進路実績の向上

- (1) 3年間を通して計画的に進路指導を行い、適切な情報提供をすることで、進路に対する目的意識を形成するとともに学習への意欲を高める。特に一年次を大切に、総合的な学習ともリンクして流れのあるものとする。
- (2) 高大接続改革に対する対応を強化する。特に導入したポートフォリオなどの運用について、指導法等をまとめていく。
- (3) 文理進学コースでのカリキュラム改編に伴う問題を検証し、国公立大学および難関私立大学合格数を増やす取り組みを行う。
- (4) 就職や公務員試験受験を含め多様な進路選択に対応できるような指導体制を構築する。

[2] 系列大学との連携強化

- (1) 1年次より系列大学のリテラシーの場を設けるなど、3年間を通じて計画的な進路指導を行う。
- (2) デザイン美術コースを中心として、教員を招いての本校での授業や夏季休暇を利用した大学での授業等での神戸芸術工科大学との連携強化を図る。

□入試・渉外構想

[1] 広報活動の強化

- (1) 全教員で募集活動を行うという意識を持つ。
- (2) 東大阪、八尾、大阪市など地元を中心に、中学校への渉外活動を重点的に実施する。アスリート推薦での訪問を活かし、広範囲で本校を周知する活動を行う。
- (3) 中学校への出前授業は継続して、積極的に引き受ける。
- (4) 学習塾担当の専従者がいることを活かし、学習塾への訪問回数を増加し、広報活動に努める。
- (5) 学校案内（パンフレット）作成にあたり、業者との連携をしっかりと取り、本校のアピールしたい内容をしっかりと伝えることのできるものをつくる。

- (6) 本校でのオープンスクール、入試説明会を全教職員で取り組み、生徒の参加や協力も得ながら内容をさらに充実する。
- (7) 行事やクラブ活動など本校の情報を積極的に発信し、ホームページの更新頻度を高めていく。
- (8) 入試におけるネット出願を検討する。

[2] 専願受験者の確保

- (1) コースコンセプトを明確にし、コース目標を達成するための教育活動をアピールすることで専願志願者増を目指す。
- (2) スポーツ専修コース3クラス90名以上の確保を目指し、スカウティングに注力する。また、魅力あるクラブとするため施設設備面での改善を進める。
- (3) 充実した特待生制度について広報を強化するとともに、中学校へ丁寧に説明することで理解を得るようにする。
- (4) 競合する他校に対して最もディスアドバンテージとなっている施設設備面の改善と、アドバンテージである神戸芸術工科大学との連携を強く打ち出すことでデザイン美術コースへの専願志望者を増加させる。

[3] 女子生徒の確保

- (1) 志願者の40%、入学者の33%を目標に取り組む。
- (2) 改修しサニタリーボックスを設置したトイレや、什器の入れ替えなどを行い明るい雰囲気となった食堂など、近年改善してきた点をアピールしていく。また、さらに女子生徒に魅力的な学校を目指して、明るいイメージの校舎・教室を目指して、改善に向けて努力していく。
- (3) 女子生徒に魅力あるクラブの増設を考え実行する。運動部では、陸上競技部・柔道部の他、剣道部への入部も視野に入れて募集活動を行う。また、文化部について検討していく。

□教員の研究・研修構想

[1] 教員の教育力向上

- (1) ここ数年実施してきた教員を指名しての公開授業（研究授業）は、予定通り1回目のサイクルを終了した。次の段階として、時間講師も含めた新たな計画を、企画立案し実施する。
- (2) 校内研修会を実施し、教員の教育力向上を図るとともに意識統一を行う。教務部主催の放課後ミニ研修会も継続して実施する。
- (3) 特に注力したい分野についての外部研究会への積極的な参加を促し、参加後に研修会や教科会で報告し、全体に情報が共有できるようにする。
- (4) 学校評価や授業評価を実施し、授業分析や授業改善の指針とする。
- (5) 教科会を充実し、教科内での意見交換や止揚の場、教科教育力向上の場として活用する。

[2] 教員組織の活性化

- (1) 職場の雰囲気は良く、教育目標を共通認識し、教員相互で助け合える組織となりつつある。次の課題として、自由に自分の意見が発言できるよう会議等の進め方を研究する。また、年度当初に講師説明会を実施し、時間講師の先生方も同じスタンスで指導し、問題点を共有できるようコミュニケーションを取ることを心がける。
- (2) 学校施策や行事を責任の所在を明確にした上で企画・運営していく体制づくりを行い、運営委員会、校務分掌会議、コース運営会議、学年会、教科会などが、機能的に働くようにする。また、目的に沿った総括を行い、PDCAサイクルを意識する。

[3] 変革する教育への対応

- (1) 令和4年度から年次進行で実施される次期学習指導要領について、新カリキュラムが確定したため、その実施に向け準備を開始する。
- (2) 進路指導部を中心に、大学入試センター試験にかわる「大学入学共通テスト」（令和2年度実施予定）についての準備をすすめる。ただ、依然として不確定要素が大きいため、情報収集に努め適切に迅速に対応できるような体制をつくる。
- (3) ICT教育については、専用教室を設置し、現在行っている授業のモデル例として、各教科で有効利用できるよう検討していく。また、昨年度策定した中期的計画を基に、普通教室や他の特別教室で実施できるよう具体化していく。
- (4) 対話的で深い学び、英語の4技能など新しい教育の方法論について、外部研修会を中心に学び、教科教育として取り入れていく。
- (5) 昨年度より設置した保健委員会を中心に発達障害や不登校生について生徒理解を深めていく。さらに、昨年度、生徒アンケートを基に考察した自己肯定感やセルフエスティームを上げる方策を検討する。また、アンガーマネジメントやコーチングを行うといった手法について研究していく。
- (6) クラブ活動の在り方について、学校方針（学校長方針）を検討し、提示する。

□その他

[1] 保護者との連携強化

- (1) PTA活動へ教員全体で参画・協力する。
- (2) 家庭で学業成績や学校生活の様子を把握してもらうために、一学期および二学期の年2回クラスで三者面談を実施し、一学期および二学期中間考査後に結果を郵送などで報告する。また、保護者対象に公開授業を実施し、学校・授業の様子を見てもらう機会とする。
- (3) 谷学ネットやホームページを家庭との連絡の手段として活用する。
- (4) コース費用などの見直しを行い、保護者負担の軽減を図る。

[2] 地域との連携

- (1) クラブを中心に東大阪市民ふれあいまつりなど地域行事へ参加・協力をする。
- (2) 文化祭など本校行事を近隣へ案内し、本校の様子を知っていただく一助とする。
- (3) 第三者評価員会を設けるに当たり、近隣自治会などへ協力依頼を行う。

[3] 大阪商業大学附属幼稚園との連携

- (1) 本校デザイン美術コースの協力授業を継続して行い、連携を図っていく。
- (2) 運動会、避難訓練、夕涼み会など幼稚園行事へ協力する。また、互いの行事へ参加できる企画を考える。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析[令和2年12月実施分]	学校評価委員会からの意見
<p>□学校生活全般</p> <p>○「学校の雰囲気がよい」 肯定的回答(生徒 男 76% 女 64%、保護者 88%、教員 70%) 参考) 昨年度 (76) (68) (88) (71)</p> <p>○「自分のクラスが楽しい」 肯定的回答(生徒 男 87% 女 82%、保護者 88%、教員 91%) 参考) 昨年度 (90) (82) (82) (83)</p> <p>【分析】 「学校の雰囲気について」の質問に対して、保護者は約90%が肯定的な回答であるが、教員が約30%、生徒、特に女子生徒の30%以上が否定的な数値となっている。教員についてはコロナ禍による経験したことのない長期休校や様々な制限などが要因の一つと考えられる。また、女子生徒が過ごしやすい環境作りは共学化以来の継続している課題となっており、検証し改善する必要がある。</p> <p>「あいさつに溢れる学校」については、保護者は肯定的意見が多くを占めているものの、教員では40%が否定的意見となっている。クラブ員を中心とした校内での挨拶習慣がある程度定着していると評価できるが、さらに挨拶励行のキャンペーンなど学校全体としての取り組み行っていく必要がある。生徒からの一方的な取り組みだけではなく、大人(教職員)から挨拶励行を継続することが重要である。</p> <p>学校生活の根幹となっている「クラス活動」については、各学年ともに85%以上が肯定的な回答が出されていることは評価できる。今年度は予定されていた学校行事を例年通りに行うことができなかつたにも関わらず、日々の学習活動やクラス活動の充実がこの結果に繋がったと言えよう。今後も生徒たちと学級担任とともにクラス活動を豊かなものにする努力を行っていくことが必要である。</p> <p>「コースの取り組み」について、例年通り生徒は概ね肯定的な回答であるが、教職員は否定的数値が高くなっている。ただ何となく、各コースで用意されたカリキュラムを消化していくのではなく、コースのコンセプト、到達目標を今一度明確にして、向かうべきベクトルを示していくことが大切である。各コース今後『総合的な探究』においてさらにコースコンセプトを追及していく予定である。</p> <p>「資格取得の多様性」は生徒、保護者、教職員ともに肯定的数値が多く出ている。ただ、各種検定の合格率は必ずしも上昇しているとは言えないのが現状である。各種検定への合格率の向上が、さらに肯定的なベクトルとなっていく。資格取得をメインに掲げているグローバル商大コースの充実にも繋がる項目であるので、教科のみでなく、学年の枠を超えて学校全体で考え、盛り上げていくことが急務である。また1年次から目標を設定し継続的にモチベーションを持たせることも必要である。「教員の教育熱心」については、生徒からは80%程度の肯定的な回答が出ており、保護者の意見も約90%が肯定的な意見となっている。ICT等を駆使した生徒への指導だけでなく、電話や面談などのアナログ的な取り組みが必要な側面であり、その点において各教員が努力した結果であると思われる。</p>	<p>＊新型コロナウイルス感染防止のため、令和3年3月13日(土)に実施予定であった「学校評価委員会会議」は中止となりました。</p> <p>→参加予定の各委員の方々に文章にて内容確認を行い、書面にて意見の集約を行いました。</p> <p>・教員が教育熱心で、個別指導において、努力されていることが感じられる。</p>
<p>□学習に関して</p> <p>○「先生の授業はわかりやすい」 肯定的回答(生徒 男 79% 女 78%、保護者 84%、教員 85%) 参考) 昨年度 (76) (68) (78) (70)</p> <p>○「(生徒は)意欲的に学習に取り組んでいる」 肯定的回答(生徒 男 71% 女 69%、保護者 75%、教員 45%) 参考) 昨年度 (82) (78) (72) (43)</p> <p>【分析】 「授業のわかりやすさ」について、生徒間で各学年ともに約80%の肯定的な回答となった。大人(教員・保護者)においてもほぼ同じような結果となっている。今年度は「授業が解りにくい」等の意見は少なかつたと思われるが、クラスによっては「(科目によって)授業中騒がしい場合がある」との声も聞いている。授業が学習活動の根幹であるがゆえに、生徒が授業中集中して知識を高めていく機会を与えていくことが学校として当然の姿である。今後、教科を中心として、わかりやすく、学んでいきやすい環境を創造していくことを行っていきたい。そのために、公開授業や授業アンケートを有効活用、教科内での勉強会の充実による教授法の向上、大学共通テスト等への対応を行い、生徒参加型の授業研究などが望まれる。</p> <p>「授業への意欲的な取り組み」は例年通り、生徒・保護者と比較して、教員の意見が厳しいものとなっている。特にコースによっては、3年生の2学期以降の授業へのモチベーションの低下が大きな原因となっていると思われる。1～2年生においても検定期や定期試験前だけでなく、継続した授業への積極的意欲的参加が、知識の向上につながることを訴え、3カ年で学力的な成長を目標にすることが必要である。生徒の授業に対するモチベーションの向上への仕掛けは教員の工夫が一番有効である。生徒たちが学習の楽しさ、知識をつけることの充実感など、生徒の気付きを教員側が行っていくことが必要である。</p>	<p>・生徒が授業をわかりやすいと感じているのは、教員の努力が実を結んでいると感じられる。</p>
<p>□進路指導に関して</p> <p>○「授業・模擬試験が進路に対応している」 肯定的回答(生徒 男 77% 女 71%、保護者 81%、教員 64%) 参考) 昨年度 (80) (74) (82) (59)</p> <p>○「進路の情報は適切に提供されている」 肯定的回答(生徒 男 86% 女 82%、保護者 88%、教員 83%) 参考) 昨年度 (72) (60) (83) (79)</p> <p>【分析】 「授業・模擬試験の進路への対応」について、生徒の回答は肯定的なものが中心ではあるが、教員の回答はまだ否定的なものが多い。進路の合否だけでなく、真の学力をつけられたかどうか検証していく必要がある。そのために模試・学力テストなどのデータ分析、そしてそのデータの共有、教科へのフィードバック、改善策の検討、実施というサイクルが常に必要である。それらの作業が充実すれば、生徒・教員双方ともに肯定的回答が増加すると思われる。近年、スタディサプリを用いての学習および確認テストを実施しており、リンクさせている。このサイクルをさらに充実させれば肯定的回答がさらに上昇すると思われる。「進路情報の提供」については、進路指導部を中心に、進路ガイダンスや将来を考えさせる機会を提供しており、概ね肯定的な回答を得ている。今年度は大学入試改革初年度に加え、コロナ禍による入試変更などもあった。引き続き正確な情報をタイムリーに提供する必要がある。</p>	<p>・進路に対応した情報が提供されている件に関して、まだ満足度が低いのは考え直さなければいけない。生徒の将来に対して親身に考えてあげてほしいと思います。</p> <p>・大阪商業大学に入学される方には新しい友人関係にチャレンジすることとご指導いただければよいと思う。</p>

自己評価アンケートの結果と分析[令和2年12月実施分]	学校評価委員会からの意見
<p>□生活指導</p> <p>○「学校の規則は妥当か」 肯定的回答(生徒 男 69% 女 59%、保護者 88%、教員 80%) 参考) 昨年度 (72) (60) (91) (79)</p> <p>○「学校の規則を守っているか」 肯定的回答(生徒 男 74% 女 67%、保護者 91%、教員 43%) 参考) 昨年度 (95) (88) (80) (36)</p> <p>○「生活指導について納得度」 肯定的回答(生徒 男 69% 女 54%、保護者 85%、教員 62%) 参考) 昨年度 (71) (58) (73) (57)</p> <p>【分析】 「教員は悩みを親身になって聞いてくれる」は三者(生徒・保護者・教員)ともに例年通り、肯定的回答が大部分を占めた。学校方針でもある、日ごろのきめ細やかな教育活動の成果であると評価できる。「学校の規則の妥当性」については、生徒間においては、否定的意見が30%を超えている。特に女子生徒での否定的割合が依然高く(約40%)、なぜ校則が必要なのか、粘り強く説いていくことが必要である。「生徒が規則を守っている」は例年と同じく、生徒の数値と教員の数値に大きな差が生じている。多くの生徒が校則を守っているが、一部の校則を守っていない生徒に対する指導に多くの労力を費やしていることと、規則の解釈の差異もあるかもしれない。『指導する』側(教員)と『指導される』側(生徒)の立場の違いはあるが、その数値を近づけていくために、なぜ校則があるのか、校則を遵守することがなぜ大切なのかを繰り返し説いていくことが必要である。「生徒は生活指導に納得している」については、生徒間においては、肯定的意見が65%、否定的意見が35%となっている。昨年度とほぼ変わらない結果となった。スマホ・ケイタイのルールなど変更があったためことも要因の一つと言えよう。「ベル着を守っている」について、例年通り生徒は概ね肯定的な回答であるが、教員の数値も肯定的回答が増えてきた。「50分間しっかり授業を行う(受ける)」「授業第一」の意識が徐々に定着してきた結果だと思われる。</p>	<p>学校評価委員会からの意見</p> <p>※新型コロナウイルス感染防止のため、令和3年3月13日(土)に実施予定であった「学校評価委員会会議」は中止となりました。</p> <p>→参加予定の各委員の方々に文章にて内容確認を行い、書面にて意見の集約を行いました。</p> <p>・教員が生徒の悩みをよく聞いていると感じる。規則に関しては女子生徒の理解が問題。全体として、生徒・保護者とも生活指導の満足度が高い。</p> <p>・女子生徒への指導と先生側との乖離(思い)は先生側の随分なストレスかなと感じました。いい意味での妥協点があれば、双方に良いかもしれない。</p>
<p>□設備について</p> <p>○「校内の施設・設備はよく整備されている」 肯定的回答(生徒 男 51% 女 46%、保護者 71%、教員 36%) 参考) 昨年度 (57) (48) (73) (34)</p> <p>【分析】 「校内施設設備」については、否定的意見が他の項目よりも多い。ただしトイレのリフォーム、ICT教室の設置など校内施設改善が計画的に進められている。現存の施設の有効的使用および生徒の美化意識向上も継続して必要である。</p>	<p>・学校生活は楽しくて充実している。入学して良かったと感じている生徒や保護者が多い。しかし施設や設備面で不満が多いのが目立っている。</p>
<p>□その他</p> <p>○「学校行事は楽しく充実している」 肯定的回答(生徒 男 74% 女 61%、保護者 76%、教員 63%) 参考) 昨年度 (75) (66) (78) (77)</p> <p>○「部活動は活発で充実している」 肯定的回答(生徒 男 82% 女 77%、保護者 82%、教員 83%) 参考) 昨年度 (81) (80) (80) (84)</p> <p>○「あいさつの溢れる学校である」 肯定的回答(生徒 男 77% 女 69%、保護者 87%、教員 60%) 参考) 昨年度 (86) (76) (89) (75)</p> <p>○「入学して(させて)よかった」 肯定的回答(生徒 男 72% 女 68%、保護者 88%、教員 81%) 参考) 昨年度 (77) (69) (80) (62)</p> <p>【分析】 「学校行事」について、肯定的回答が多数を占めているが、2年生の35%が否定的意見となっている。コロナ禍による各種学校行事の中止や変更が余儀なくされ、特に2年生は修学旅行が実施されない結果となった。このことが大きな要因であると考えられる。「部活動」についても、肯定的回答が多数を占めている。ただし、活動施設の問題については多くの意見が寄せられているのが現状であるので、環境整備が肯定的結果へとつながっていくのではないかとと思われる。「入学して(させて)よかった」については、概ね肯定的意見が多数を占めている。2年生が否定的回答が多く、学校行事で前述した学校行事の問題(修学旅行の中止)も要因の一つであると思われる。それに加え中間学年が故のモチベーション低下も考えられる。各学年に対して学校生活へのモチベーション向上への取り組みが必要である。本校の募集活動にもリンクしていくことになるので、全教職員で取り組んでいく。</p>	<p>・学校生活が楽しくて充実していると感じている生徒が多い。教育指導に熱心に取り組んでいる教員が多い、これが大阪商業大学高等学校の伝統だと思います。</p> <p>・肯定的な回答が多い中、教員の回答が全体的に厳しめであり、これは学校もしくは教員自身への自己評価と受け取れます。裏を返せば、まだまだノビシロが多くあるものと受け入れ、今後の取り組みに期待できるものと感じました。</p>
<p>□休校中の課題や連絡方法・ICTについて――*当該年度のみ設問</p> <p>○「休校中の課題は適切な量・内容であった」 肯定的回答(生徒 男 62% 女 57%、保護者 74%、教員 81%)</p> <p>○「休校中の連絡(谷学ネット・HP)はよく伝わった」 肯定的回答(生徒 男 70% 女 69%、保護者 84%、教員 92%)</p> <p>○「今後、オンライン授業を充実させるべきである」 肯定的回答(生徒 男 72% 女 61%、保護者 85%、教員 84%)</p>	<p>・初めての経験であるが、よく対応していると感じる。オンライン授業の充実は、今後の課題と感じている。</p>

3. 本年度の取組内容及び自己評価

中間的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価 ◎-評価 80%以上 ○-評価 60% △-評価 40% ×評価 20%以下			
□ 学習指導構想	<p>[1] 生徒の学習状況の把握と対応 (1) 各教科で定期考査後のデータ分析により学習状況の把握をし、次の授業に反映する。一年間の授業を総括し、シラバスを見直し有効活用する。 (2) 昨年度策定した学力不振者への、入学後のリメディアル教育、定期考査前、考査後、長期休暇中の補習などによる学力補充の方策を実施する。</p> <p>[2] 教科教育活動の充実 (1) 授業内容を精選し、一時間一時間の授業を大切に作る姿勢を教員・生徒ともに養う。ここ数年減少してきた自習時間は、教員の有給取得の義務付けにより増加傾向となっているため、対応策を考えていく。 (2) グローバル商大コースを中心に実用英語検定、簿記検定、ICTプロフィシエンシー検定(P検)など資格取得を前提とした指導体制を維持し、合格率向上を目指す。また、検定前補習を担当者任せではなく、学校全体の取り組みとするようシステム化する。大学入学共通テストに伴う新英検への対応を始める。 (3) 学習指導要領改訂に伴う先行実施分について、既に家庭科等に対応しているが、実施状況を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科定期試験などのデータ分析 ・学力不振者への学期末補習実施 ・業者学力テストの有効利用 ・学力テストデータを基にしたリメディアル教育の実施 ・新カリキュラムの検討 ・ベル即授業→50分間授業提供の徹底 ・「総合的な探求の時間」に対して各コースでの検討 ・初の大学入学共通テストへの取り組み ・各種検定合格率向上およびそれに向けての学校全体としての取り組み 	各教科定期試験データ分析を教務部中心に行う。教科会議においても議題とし、適切な成績評価につながるようした。	◎			
			学力不振者に対して、リメディアル教育および各学期末に欠点者補習を行った。	◎			
			新カリキュラムの検討を教務部中心に実施。各コース、各教科との意見交換を重ねながら、完成した。	◎			
			ベル着の習慣がマンネリ化してきている。(生徒アンケート調査の結果74%が「ベル着を守っている」との回答←昨年93%)	△			
			各コースの特徴が現れるような「総合的な探求の時間」の内容をコースベースで検討し、準備を進めている。	◎			
			大学入学共通テストへの対策として英語民間試験「新英検」への対応をコースと英語科で検討したが、「新英検」が延期となった。	---			
			◆◆各検定試験合格数について目標設定・評価◆◆				
			英検準2級→受検者数の60%合格	・英検準2級合格→合格66名 <受検315名>---合格率21%(昨年11%) *2級合格者24名となり昨年度の22名より微増となった	△		
			全商簿記検定2級→受検者数の50%合格	・全商簿記検定2級 →合格50名<受検194名> ---合格率25.7%(昨年21.3%) 昨年度より合格率が上昇した	△		
			ICTプロフィシエンシー検定(P検)の受検→3級合格	・P検→3級合格42名<受検数60名> ---合格率70%(昨年64%) *準2級合格者36名、合格率60%(昨年比増) *全商情処理検定3級合格者21名、昨年の23名より微減となった。	△		
※各検定、コロナ禍による休校のため、学習の絶対量が不足していたことは否めない。(特に6月実施の全商簿記検定)目標には到達しなかったが、昨年度よりも合格数や合格率が上昇したことは評価できる。							
「まな部」の始動	「まな部」が始動、商大コース、デザインコースの進学補習の位置づけで放課後学習および休暇中の補習を行った。	3年生 14名(国語7、英語7) 2年生 32名(国語15、英語17)が参加 3年生で目標の進路を果たせたものもいた。	○				

中間的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価	
				◎-評価 80%以上 ○-評価 60% △-評価 40% ×評価 20%以下	
□ 生活指導構想	<p>[1] 基本的な生活習慣の確立、規範意識の育成</p> <p>(1) 理想とする「生徒像」を、行事、集会など機会がある毎に、生徒に伝え指導し続ける。つまり問題事象の発生を未然に防ぐ「予防的な指導」を目指す。</p> <p>(2) 教職員全員で、生活指導を行うという意識を徹底する。</p> <p>(3) 校則遵守を徹底し、頭髪、服装などの違反ゼロを目指す。生活指導週間を有効に活用する。</p> <p>(4) 改訂した目標値を掲げて取り組んでいる遅刻指導を継続的に実施するとともに、登下校指導を計画的に実施する。</p> <p>(5) 美化意識を高め、大掃除などを通じて校内美化に努める。</p> <p>(6) 交通安全指導や性教育、薬物乱用など危機管理につながる講座や携帯電話使用やスマホ依存教育など社会人としてのマナーを養う講座を行う。</p> <p>[2] 帰属意識の高揚</p> <p>(1) 生徒自治会を中心に、体育祭、文化祭、校内大会などの行事を、生徒の企画・運営で実施し、活性化する。</p> <p>(2) 学年や自治会活動を中心にHR活動の充実を図る</p> <p>(3) クラブ活動の充実を図るため、生徒自治会を中心にクラブ入部率を高める活動を行うとともに、校外での練習場所の確保、施設設備の改善、これに必要な予算措置など支援する方策を実施する。</p> <p>(4) 北海道修学旅行を、総括を基に、必要があればプログラムの内容を考慮し、より充実したものとする。</p> <p>[3] 特別支援教育の充実、不登校生対策の強化・改善</p> <p>(1) 特別支援教育理解のために啓発活動を行うとともに、特別教育支援コーディネーターを任命し、対象者の支援計画を立案できるような体制作りを行う。大阪私立中学校高等学校連合会主催のコーディネーター養成講座へは、引き続き教員を派遣する。</p> <p>(2) 不登校生徒に関する教務内規を見直した効果を検証する。また、新しいサポートルーム運営体制の検証を行う。</p> <p>(3) 教職員が、発達障害を抱える生徒に対して理解を深め、指導できる体制を構築する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・通常の登下校指導だけでなく、教員全員で生活指導週間において登校指導を行った(1月)。 ・学年集会、コース集会などの通じて、マナー意識の徹底などを行う。 ・生徒対象マナーや性教育などの講演の開催 ・生徒の人権などを配慮した丁寧な指導 ・年間遅刻数目標を3500以下とし、生徒指導部だけでなく、学年でも細やかな遅刻指導を行い、遅刻数減少への取り組みを行った。 ・生徒対象マナーや性教育などの講座の開催 ・スマホのマナー(朝礼～終礼時までの使用禁止、歩きスマホ、音だし等の禁止)に対して指導を行った。 ・生徒自治会を中心とした、各種学校行事への取り組み。 ・北海道修学旅行実施に向けて、準備を行う。また行き先変更を見通して別途準備を進める。 不登校生徒に関する新規内規運用 	教員全員による登校指導の実施	生徒への声掛けなどを行うことで、マナーや身だしなみの向上に繋がったと評価できる。	◎
			学年集会、コース集会の実施	コロナ禍のため、大人数が集合しての集会ができない状態が続いたが、小グループに分けての集会実施など工夫を行い、生徒への啓発活動は一定行うことができた。	◎
			学校全体の年間遅刻数を 3500 以下にする	コロナ禍により登校日数が例年よりも少なかったが、年間遅刻数 3258 名<昨年 3646・一昨年 3987>で目標数 3500 以下を達成することができた。遅刻数も近年 4000 未満で推移しており、意識づけはできていると判断できる。	◎
			性教育の実施	各学年で性教育を実施した。	○
			スマホマナーの徹底	普段より啓発活動を行っているにも関わらず、指導対象者が出てしまったことは残念である。	×
			各種学校行事への取り組み	各種行事がコロナ禍の影響で中止、変更をせざるを得なかった。その中でも生徒自治会の立案に対し生徒が積極的に取り組めたと評価できる。	○
			修学旅行準備	北海道修学旅行の準備が学年中心に進められたが、緊急事態宣言発令により延期となる。代替えのものとして、コース別の期間を短縮した行程をコース中心に作成、準備を行ったが、コロナウィルス感染状況を鑑みて中止となった。	---
			課外活動の実績	スケートショートトラックワールドカップ代表選手への選出、ボウリングでの全国大会での活躍が報告された。	○
			不登校生徒認定に関して新しいルールのもと進められた	不登校申請をするにあたり、保護者に来校していただき、保健委員長・学年主任・担任と面談を行い、不登校申請についての説明と保護者及びご家庭と更に協力をしてもらうことを確認。	◎
			カウンセリング、不登校対策について	カウンセリング相談者数延べ人数は、108 名(昨年度 331 名、一昨年度 402 名)で、対象生徒数は 39 名、対象保護者数は 4 名であった。休校期間が長くあったため、例年よりも件数としては大幅減となった。	○

中間的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価 〔 ◎-評価 80%以上 ○-評価 60% △-評価 40% ×評価 20%以下 〕	
□ 進路指導構想	<p>[1] 進路意識の高揚と進路実績の向上</p> <p>(1) 3年間を通して計画的に進路指導を行い、適切な情報提供をすることで、進路に対する目的意識を形成するとともに学習への意欲を高める。特に1年次を大切に、総合的な学習ともリンクして流れのあるものとする。</p> <p>(2) 高大接続改革に対する対応を強化する。特に導入したポートフォリオなどの運用について、指導法等をまとめていく。</p> <p>(3) 文理進学コースでのカリキュラム改編に伴う問題を検証し、国公立大学および難関私立大学合格数を増やす取り組みを行う。</p> <p>(4) 就職や公務員試験受験を含め多様な進路選択に対応できるような指導体制を構築する。</p> <p>[2] 系列大学との連携強化</p> <p>(1) 1年次より系列大学のリテラシーの場を設けるなど、3年間を通じて計画的な進路指導を行う。</p> <p>(2) デザイン美術コースを中心として、教員を招いての本校での授業や夏季休暇を利用した大学での授業等での神戸芸術工科大学との連携強化を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとの年間進路学習の立案 ・文理進学コースをはじめとする進路実績の向上、大学入学共通テスト受験奨励 ・『大学入学共通テスト』『eポートフォリオ』に対する研究、情報提供 ・多様な進路に対する指導体制構築 ・系列大学（大阪商業大学/神戸芸術工科大学）との連携強化 	<p>学年ごとに目標に応じた進路学習を計画した。</p>	<p>コロナ禍のために予定通りに進めることはできなかったが、限られた回数の中で進路に関する情報を提供した。</p>	△
			<p>◆進路実績向上への取り組み◆</p> <p>大学入学共通テストへの受験奨励</p>	<p>試験出願数 50 名以上を目標としていたが、41 名の出願にとどまった。しかしデータの分析を文理コース教員が中心に行い、4 名が国公立大学に合格した。難関私大（関関同立産近甲龍）への合格数は 44 名、その他デザイン美術コース生徒が推薦入試制度を使用し国公立大学に合格した。</p>	◎
			<p>『eポートフォリオ』への取り組み</p>	<p>当該年度に採用されることが事実上なくなり、リサーチはその時点で中止。</p>	---
			<p>系列大学への進学について</p> <p>系列大学（大阪商業大学/神戸芸術工科大学）との連携強化</p>	<p>大阪商業大学 84 名（24.5%） 昨年 21.3%</p> <p>神戸芸術工科大学 4 名（1.2%） 昨年 1.8%</p> <p>大阪商業大学の入試広報による説明会でのスライドやチャレンジテストに向けての講座の YouTube 制作など、系列校連携入試を身近なものにしてもらった。その甲斐あって、チャレンジテストを受験する生徒も増え、9 名の生徒が採用された。神戸芸術工科大学においてもデザイン美術コースを中心にきめ細やかな指導がなされた。</p>	○
<p>就職希望者について</p>	<p>18 人中、縁故関係が 2 名、自衛隊関係が 2 名、一般企業が 14 名、コロナ禍という状況にありながら健闘し、斡旋を希望する生徒の全員が内定をいただいた。厚生労働省が採用選考開始期日の変更を打ち出し、従来より約 1 ヶ月遅く就職活動が行われたため、準備期間にも余裕が生まれ細かい指導が可能になったと思われる。</p>	◎			

中間的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価 ◎-評価 80%以上 ○-評価 60% △-評価 40% ×評価 20%以下	
□ 入試・渉外構想	<p>[1] 広報活動の強化</p> <p>(1) 全教員で募集活動を行うという意識を持つ。</p> <p>(2) 東大阪、八尾、大阪市など地元を中心に、中学校への渉外活動を重点的に実施する。アスリート推薦での訪問を活かし、広範囲で本校を周知する活動を行う。</p> <p>(3) 中学校への出前授業は継続して、積極的に引き受ける。</p> <p>(4) 学習塾担当の専従者がいることを活かし、学習塾への訪問回数を増加し、広報活動に努める。</p> <p>(5) 学校案内(パンフレット)作成にあたり、業者との連携をしっかりと取り、本校のアピールしたい内容をしっかりと伝えることのできるものをつくる。</p> <p>(6) 本校でのオープンスクール、入試説明会を全教職員で取り組み、生徒の参加や協力も得ながら内容をさらに充実する。</p> <p>(7) 行事やクラブ活動など本校の情報を積極的に発信し、ホームページの更新頻度を高めていく。</p> <p>(8) 入試におけるネット出願を検討する。</p> <p>[2] 専願受験者の確保</p> <p>(1) コースコンセプトを明確にし、コース目標を達成するための教育活動をアピールすることで専願志願者増を目指す。</p> <p>(2) スポーツ専修コース3クラス90名以上の確保を目指し、スカウティングに注力する。また、魅力あるクラブとするため施設設備面での改善を進める。</p> <p>(3) 充実した特待生制度について広報を強化するとともに、中学校へ丁寧な説明することで理解を得るようにする。</p> <p>(4) 競合する他校に対して最もディアドバンテージとなっている施設設備面の改善と、アドバンテージである神戸芸術工科大学との連携を強く打ち出すことでデザイン美術コースへの専願志望者を増加させる。</p> <p>[3] 女子生徒の確保</p> <p>(1) 志願者の40%、入学者の33%を目標に取り組む。</p> <p>(2) 改修しサニタリーボックスを設置したトイレや、什器の入れ替えなどを行い明るい雰囲気となった食堂など、近年改善してきた点をアピールしていく。また、さらに女子生徒に魅力的な学校を目指して、明るいイメージの校舎・教室を目指して、改善に向けて努力していく。</p> <p>(3) 女子生徒に魅力あるクラブの増設を考え実行する。運動部では、陸上競技部・柔道部の他、剣道部への入部も視野に入れて募集活動を行う。また、文化部について検討していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基盤とする東大阪市、八尾市、大阪市、柏原市、生駒市、奈良市の中学校から安定した入学生徒数を確保する。そのため入試対策委員会と企画広報部が連携し、効果アップを図る。オープンスクールや入試説明会は全教員で取り組む ・学習塾への広報活動強化 ・入試相談ウィーク ・中学校への出前授業積極的受入れ ・ホームページを用いた迅速な情報発信 ・スポーツ専修コース3クラス編成 ・トイレの改装(後半期分 完成) ・女子生徒の確保のための取り組み 	<p>「オープンスクール」 「入試説明会」 「塾対象説明会」</p> <p>その他各種説明会の参加人数からの検証</p> <p>出前授業への対応</p> <p>ホームページを用いた情報発信</p> <p>アスリート推薦スカウティングについて</p> <p>令和3年度入学試験の受験数</p> <p>女子生徒の確保のための取り組み</p>	<p>コロナ禍により、生徒募集イベントも中止、または規模縮小を余儀なくされた。</p> <p><オープンスクール></p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回(116組)---オープンスクールウィークとして、個人相談ベースに実施 ・第2回(267組)---完全予約制で実施 <p>※計383組(昨年861名)増</p> <p><入試説明会></p> <p>3回予定していた入試説明会であるが、第3回目は中止となった。(2回分で参加数314組<昨年884名>第3回目の代替えとして配信のための動画(入試制度の関する)を作製し、最低限の情報提供を行い、希望された方々に個人相談を実施した。続く可能性もあるコロナ禍、またオンライン技術の発展なども考慮し、今後の説明会形式を一考する必要がある。</p> <p><塾対象説明会>*H30年度より2回実施61塾(昨年78塾)</p> <p>生徒の学習到達度に関する詳細な資料を配付したことが好評であった。</p> <p>外部説明会に参加をしない方針の塾も多く、数値の減少は仕方ないものと考えられるが、さらに魅力的な情報の提供に努める必要がある。</p> <p><入試相談ウィーク></p> <p>当該年度は、中止となった第3回入試説明会の代替えという位置づけになった。103組が参加した。(昨年48組)</p> <p>個別相談形式であるため、きめ細やかな説明ができるので、本校の魅力により伝えやすい。さらに充実させ継続する予定である。</p> <p><塾訪問></p> <p>のべ訪問塾数は712塾(昨年度は830塾)と減ったが、地元の東大阪市・八尾市などを中心に訪塾した。重点塾には管理職(校長・教頭)が同行した。</p> <p>※各種説明会においても参加制限が設けられ、例年よりも数値的に減少した。</p> <p>中学校への出前授業は4中学8講座。(昨年8中学21講座)</p> <p>企画広報部を中心に、学校行事やトピックなど可能な限りリアルタイムでホームページに掲載した。</p> <p>アスリート推薦での受験82名(昨年度109名)前年度が100名を超える結果となったため、90名前後を適正人数目標に渉外活動を行ったが、目標を若干下回る。</p> <p>出願数 1098名(昨年1371名) 減 専願 309名(昨年386名) 減 併願 789名(昨年985名) 減 入学数 381名(昨年514名) 減</p> <p>受験人口の減少期だけが原因にはならない。年間通じての渉外活動を検証し、改善していくことが急務である。</p> <p>トイレ改修の後半期(3階、4階)が実施され、使いやすくなったと評価を得ている。また有志の教職員、生徒たちで校舎内に花を育てるなど彩のあるキャンパス作りを行った。</p> <p>女子生徒が活動できる部・同好会の立ち上げも考慮する必要あり。</p> <p>入学生381名中女子113名(29.7%) 昨年度27.4% 増</p>	
					△
					×
					◎
					△
					×
○					

中間的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価 〔 ◎-評価 80%以上 ○-評価 60% △-評価 40% ×評価 20%以下 〕	
□ 教員 の 研 究 ・ 研 修 構 想	<p>[1] 教員の教育力向上 (1) ここ数年実施してきた教員を指名しての公開授業（研究授業）は、予定通り1回目のサイクルを終了した。次の段階として、時間講師も含めた新たな計画を、企画立案し実施する。 (2) 校内研修会を実施し、教員の教育力向上を図るとともに意識統一を行う。教務部主催の放課後ミニ研修会も継続して実施する。 (3) 特に注力したい分野についての外部研究会への積極的な参加を促し、参加後に研修会や教科会で報告し、全体に情報が共有できるようにする。 (4) 学校評価や授業評価を実施し、授業分析や授業改善の指針とする。 (5) 教科会を充実し、教科内での意見交換や止揚の場、教科教育力向上の場として活用する。</p> <p>[2] 教員組織の活性化 (1) 職場の雰囲気は良く、教育目標を共通認識し、教員相互で助け合える組織となりつつある。次の課題として、自由に自分の意見が発言できるよう会議等の進め方を研究する。また、年度当初に講師説明会を実施し、時間講師の先生方も同じスタンスで指導し、問題点を共有できるようコミュニケーションを取ることを心がける。 (2) 学校施策や行事を責任の所在を明確にした上で企画・運営していく体制づくりを行い、運営委員会、校務分掌会議、コース運営会議、学年会、教科会などが、機能的に働くようにする。また、目的に沿った総括を行い、PDCAサイクルを意識する。</p> <p>[3] 変革する教育への対応 (1) 令和4年度から年次進行で実施される次期学習指導要領について、新カリキュラムが確定したため、その実施に向け準備を開始する。 (2) 進路指導部を中心に、大学入試センター試験にかわる「大学入学共通テスト」（令和2年度実施予定）についての準備をすすめる。ただ、依然として不確定要素が大きいため、情報収集に努め適切に迅速に対応できるような体制をつくる。 (3) ICT教育については、専用教室を設置し、現在行っている授業のモデル例として、各教科で有効利用できるよう検討していく。また、昨年度策定した中期的計画を基に、普通教室や他の特別教室で実施できるよう具体化していく。 (4) 対話的で深い学び、英語の4技能など新しい教育の方法論について、外部研修会を中心に学び、教科教育として取り入れていく。 (5) 昨年度より設置した保健委員会を中心に発達障害や不登校生について生徒理解を深めていく。さらに、昨年度、生徒アンケートを基に考察した自己肯定感やセルフエスティームを上げる方策を検討する。また、アンガーマネジメントやコーチングを行うといった手法について研究していく。 (6) クラブ活動の在り方について、学校方針（学校長方針）を検討し、提示する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業の実施 ・授業アンケート等の活用 ・校内研修（教務部・保健委員会）の実施 ・外部研修会への積極的参加 ・教科会の充実 ・時間講師説明会の実施 ・次期学習指導要領への対応 ・大学入学共通テストの研究 ・ICT教育充実に向けての準備 ・クラブ指導の在り方についての議論 	<ul style="list-style-type: none"> 授業公開の有効活用 授業アンケートの実施及びレポート提出 校内研修 外部研修会への参加 教科会議を通じての教授力向上 時間講師対象の説明会実施 新学習指導要領への対応 大学入学共通テストの研究および対応 ICT教室の完成、有効利用 クラブ指導の在り方について 	<p>4名の教員が授業公開を行った。次年度よりシステムの再考を行ったうえで継続して行っていく。</p> <p>2学期中に授業アンケートの実施、レポートの提出を義務付けた。</p> <p>教務部主催の全体研修会はコロナ禍の関係で実施できなかった。ミニ勉強会を3回実施した。 また保健委員会主催で CPR・AED の研修会を実施（東大阪市消防局西消防署に依頼）。今年度は重度の心疾患を持っている生徒が1学年にいるため第1学年団と2020年度新任教員の先生方と事務の方々に受講してもらった。</p> <p>日本私学教育研究所主催の研修会に述べ3名参加した。（研修会自体、中止となるケースがほとんどであった）</p> <p>学力テストの結果を踏まえて（国数英）各教科で学力分析、今後の課題などの確認を行う。また評価の方法についても教科内で議論することが多くなってきた。 単なる連絡会ではなく、教科学習の充実を討議する場になってきている。</p> <p>4月初旬に、全時間講師対象に学校方針の説明会を実施、理解を得た。</p> <p>教務部と各コース・各教科が連携を取りながら、学校と各コースのコンセプトに沿ったカリキュラムを確定させた。</p> <p>文理進学コースを中心に大学入学共通テストの研究と各教科での準備を進めた。受験数こそ少なかったが、高得点を取る生徒が予想以上におり、進路面での成果をあげた。</p> <p>選択教室を ICT 教室にリフォーム。情報の授業をはじめ、クラブ活動での動画チェックやオンラインミーティングなどで利用している。</p> <p>コロナ禍のために、クラブ活動を十分に行うことができず、検証をすることができなかった。 翌年度以降、継続して検討する予定。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ◎ ◎ ○ ○ ◎ ○ ◎ --

中間的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価 〔 ◎-評価 80%以上 ○-評価 60% △-評価 40% ×評価 20%以下 〕	
□ その他	<p>[1] 保護者との連携強化 (1) P T A活動へ教員全体で参画・協力する。 (2) 家庭で学業成績や学校生活の様子を把握してもらうために、一学期および二学期の年 2 回クラスで三者面談を実施し、一学期および二学期中間考査後に結果を郵送などで報告する。また、保護者対象に公開授業を実施し、学校・授業の様子を見てもらう機会とする。 (3) 谷学ネットやホームページを家庭との連絡の手段として活用する。 (4) コース費用などの見直しを行い、保護者負担の軽減を図る。</p> <p>[2] 地域との連携 (1) クラブを中心に東大阪市民ふれあいまつりなど地域行事へ参加・協力をする。 (2) 文化祭など本校行事を近隣へ案内し、本校の様子を知っていただく一助とする。 (3) 第三者評価委員会を設けるに当たり、近隣自治会などへ協力依頼を行う。</p> <p>[3] 大阪商業大学附属幼稚園との連携 (1) 本校デザイン美術コースの協力授業を継続して行い、連携を図っていく。 (2) 運動会、避難訓練、夕涼み会など幼稚園行事へ協力する。また、互いの行事へ参加できる企画を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 谷学ネット（メール配信）の有効利用 ・ 中間試験結果の郵送 ・ 学校評価委員会の開催 ・ 保護者対象授業公開 ・ 近隣自治会への協力依頼 ・ 大阪商業大学附属幼稚園との連携 	メール配信の有効利用	年度当初や、家庭連絡文の中に登録をお願いする文面を入れることで、多く登録していただいた。(全体で 1000 件を超える登録) 気象警報や各種行事の連絡など有効に活用している。翌年度より新しいシステムを導入予定。研究を行い、より有効活用したい。	◎
			中間試験結果の郵送	1 学期・2 学期の中間試験結果を各家庭に郵送、その他その時期毎の諸連絡も同封している。(保護者学校評価アンケートも同封)	○
			学校評価委員会	(新型コロナウイルス感染拡大防止のために集合形式での開催はできなかったが、書面で回覧、意見を集約した。)	---
			保護者対象の授業公開について	11 月に期間を設けて行っているが、10 名程度の参加のみ。実施方法に一考を要する	×
			近隣自治会への協力依頼	学校評価委員会を開催することはできなかったが、近隣自治会（御厨南自治会）に「令和 2 年度学校評価まとめ」に対して書面でご意見を頂戴し、本紙に反映することができた。	◎
			大阪商業大学附属幼稚園との連携	デザイン美術コース 2 年生の幼稚園との『協力授業』については、規模縮小で行った。また幼稚園での屋外行事（運動会、夕涼み会など）における本校グラウンドの使用にあたり、体育科およびグラウンド使用各クラブが調整、協力を行った。	○